

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2017 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
	- (事務局用)	地域計画の推進につながるアイデア	山口県宇部市
アイデア名 (注1) (公開)	「地域の高齢者の協力で創る」食事もできる放課後寺子屋		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2017 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報

チーム名 (公開)	和 咲良		
チーム属性 (公開)	<input checked="" type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
メンバー数 (公開)	3名		
代表者情報	氏名 (公開)	中谷淳子	

**(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。**

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2017\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2017 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin\_padit\_cog2017@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。

3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)

5. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、や知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。

7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

## 2. アイデアの説明（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの論拠、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

### （1）アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれが、何を、どこで、いつ、どのように、する公共サービス（活動）なのか、これらの要素を入れて**内容そのもの**をわかりやすく示してください。**1 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

#### 本事業の概要

「地域の高齢者の協力で創る」食事也能する放課後寺子屋

#### ビジョン

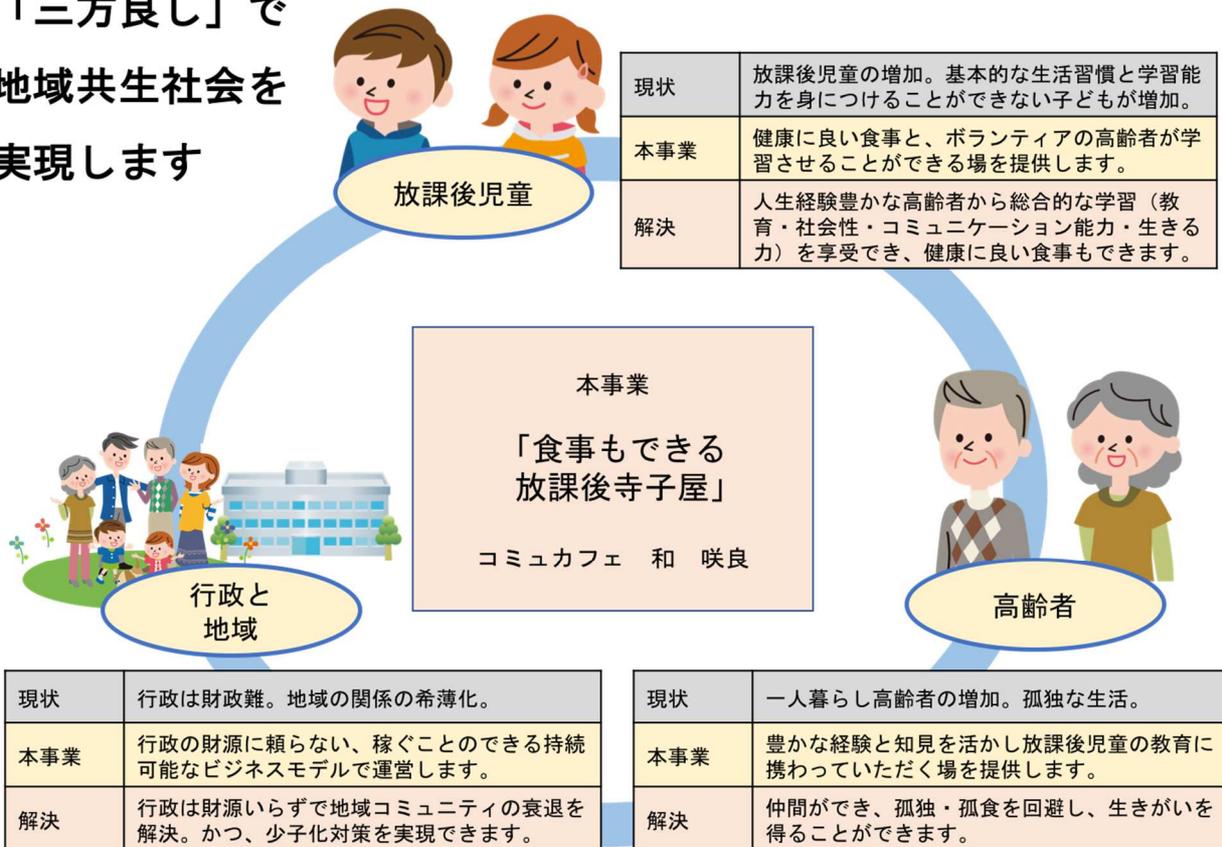
『放課後児童』と『孤独になりがちな高齢者』が、美味しい食事と楽しい会話を一緒にできる空間でお互いに良い影響を与え、教え学び合い、笑顔で健康になれる癒しのカフェ風寺子屋です。

#### 大きな特徴

行政の財源などに極力たよらずに持続的に運営できるビジネスモデルです。

#### 関係図

「三方良し」で  
地域共生社会を  
実現します



## (2) アイデアの論拠（公開）

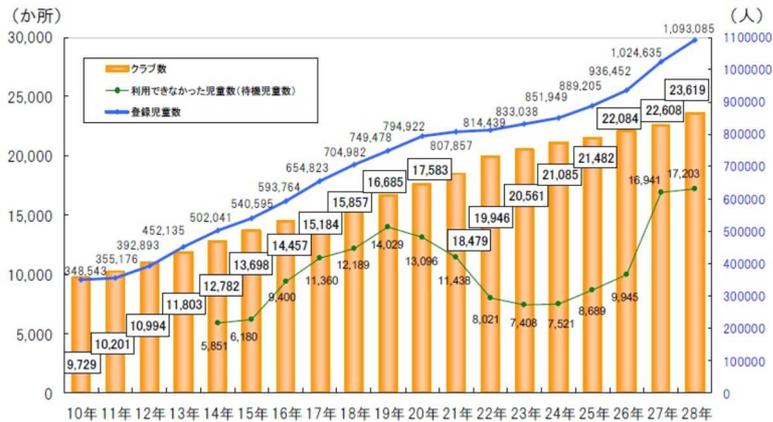
アイデアの論拠（なぜこのアイデアなのかの理由付け）について、それをサポートするデータ（統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの定性データ）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつ、2 ページ以内でご記入ください。データ類は出所を明らかにしてください。

以下、①子供（放課後児童）②高齢者③行政と地域、の3視点から理由付けします。

### ①子供からみたこのアイデアの必要性

#### ①-1）放課後児童数が全国、山口県、宇部市で増えています。

■全国の放課後児童クラブ数、登録児童数、及び登録できなかった児童数の推移



登録児童数、クラブ数とも増加傾向。  
登録児童数は対前年約7万人増の1,093,085人。  
利用できなかった児童数も対前年約260人増の17,203人。

(出所：平成28年 放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の実施状況（厚生労働省））

#### ①-2）山口県は登録児童数が多く、施設を利用できなかった待機児童数も全国ワースト2位です。

■都道府県別放課後児童数

■利用できなかった児童数（待機児童数）

都道府県	H27	H28登録児童数		ワースト順位	都道府県	待機児童数		
	登録児童数 (人)	人口10万人当たり	伸び率			人口10万人当たり		
山口県	10,768	12,096	876	12.3%	1	沖縄県	624	43.2
広島県	9,558	10,037	355	5.0%	2	山口県	415	30.0
福岡県	24,383	25,967	508	6.5%	3	東京都	3,041	22.1
全国	707,689	750,322	592	6.0%	—	全国	11,577	9.1

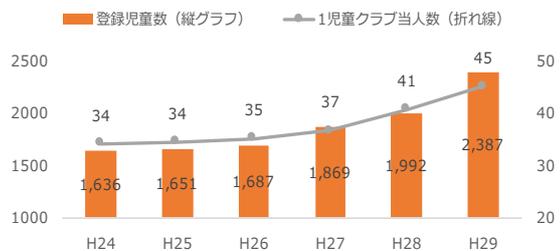
(左右と下左図の出所：「平成28年 放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の実施状況（厚生労働省）」を編集加工)

#### ①-3）さらに山口県は放課後児童支援常勤職員が少なく(全国ワースト3位)、そうこうしている間に宇部市の登録児童数は急激に増加しており支援が追いついていないのが現状です。

■放課後児童支援常勤職員数とその割合

■宇部市の登録児童数と児童クラブ当人数

ワースト順位	都道府県	待機児童数	常勤職員数	常勤職員数一人あたりの登録児童数
1	大阪府	32,324	182	177.6
2	愛媛県	7,570	76	99.6
3	山口県	12,096	129	93.8
—	全国	750,322	23068	32.5



(左図の出所：上記と同様)

(右図の出所：宇部市「学童過去6年間の利用実績」を編集加工)



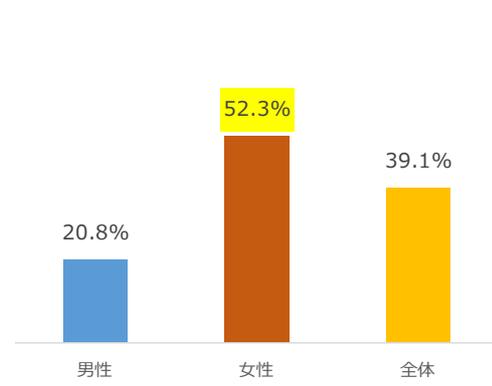
放課後児童数が増加しているが施設での支援は追いついていない危機的状況です。

## ②高齢者からみたこのアイデアの必要性

### ②-1) 全国的に単独世帯の孤独な高齢者が増加、宇部市では高齢女性の半数以上が単身です。

#### ■ 家族形態別に見た 65 歳以上の高齢者の割合

#### ■ 宇部市の 65 歳以上の男女別独身率



(左図の出所：内閣府「平成 29 年版高齢社会白書」)

(右図の出所：宇部市提供データを編集加工)



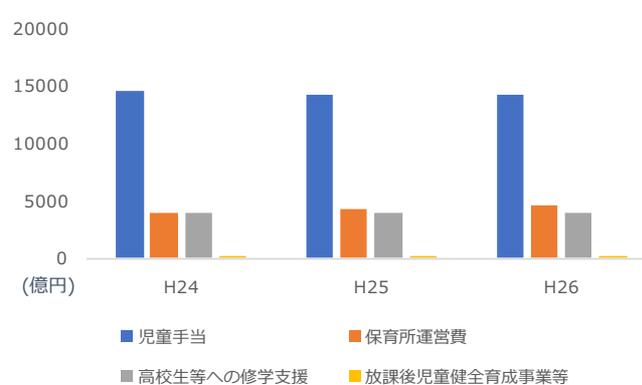
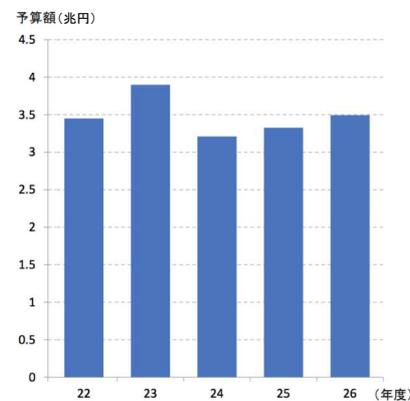
孤独な高齢者が増加しており、高齢者の豊富な経験や知見が活かされていません。

## ③地域・行政からみたこのアイデアの必要性

### ③-1) 国の少子化対策予算自体も伸び悩んでおり、放課後児童対策の予算は十分とは言えません。

#### ■ 政府の少子化社会対策関係予算の推移

#### ■ 少子化社会対策関係予算の推移(上位 3 項目との比較)

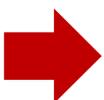


(左右図の出所：内閣府「選択する未来」委員会：経済財政諮問会議」を編集加工)

■ こういった中、宇部市も歳入面では市税や地方消費税交付金が増え悩む一方、歳出面では、社会保障関係経費等の増加をはじめ増傾向であり財政状況は厳しい状況です。



行政は放課後児童対策にまで十分には予算が割けず地域の関係も希薄化が進んでいます。



本事業で子供、高齢者、地域と行政のそれぞれの課題を解決

### 3) アイデア実現までの流れ (公開)

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)の大まかな規模とその現実的な調達方法(制約がある場合にはその解決策を含む)、アイデアの実現にいたるプロセスとマイルストーン等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2ページ以内でご記入ください。(必要に応じて図表を入れても構いません)

#### アイデアの概要

##### 商品サービスの内容と人員体制について

メインの放課後寺子屋事業(下図の黄色部分が子供向け事業)は低収益なサービスですので、それを補完するため他の時間帯で寺子屋事業と近いターゲットに向け、利益率の高いサービスを実施します。寺子屋事業の高齢者はボランティアですが、低価格で食事を提供します。子供は現金不要で通えるように前払いのチケット制です。

商品・サービス	ターゲット	収益モデル	人員体制					
			私	兼男	兼女	パート	家族	
(不定期) 貸切(週1~2回) 10時 ~12時	貸切・趣味の会※1	時間的・経済的 ゆとりのある人	利益率 中	↑	↑	↑	↑	↑
	週1~2回 お子さまTime※2	乳幼児連れの人 乳幼児好きな人	客単価 1000円~ 利益率 低 客単価 700円~					
11時半 ~14時	ランチ	お喋り好きな 40代前後の主婦	利益率 中 客単価 1000円~	↓	↓	↓	↓	↓
14時 ~15時	休 憩							
15時 ~18時	食事もできる 放課後寺子屋※3	放課後児童 高齢者(孤食解消)	利益率・客単価 低 *会員・チケット制	← ボランティア →				
	18時 ~20時	テイクアウト 夕食(お酒)※4	子育てファミリー 迎えに来てそのまま団欒 利益率:高 客単価2000円	↑	↑	↑	↑	↑

※1 午前中は趣味の会・セミナー・茶話会等、予約のみの貸切で仲間作りや生涯学習の場として活用(週1~2回)。  
 ※2 上記とは別の曜日(週1~2回)お子さまTimeとして乳幼児連れの人がかつろげる日を設ける。  
 ※3 日曜日・祝日は定休日だが、要望があれば、予約のみの貸切営業可能。少スポの試合の打ち上げ・親睦会・親戚の祝い事・法事等で、乳幼児から高齢者まで同じ空間で楽しめるような設備を完備している。  
 ※4 忘年会や同窓会などの後に希望があれば、20時以降2次会としてスナック営業可能(お持ち帰り)。  
 ※ほか: カフェの定休日:日曜祝日・月曜日、寺子屋の定休日:小学校が休みの日(月曜日は寺子屋のみ営業)

##### 資金面について

極力行政の財源不要で運営できるように利益を生み出し続ける経営をします。

#### 損益・キャッシュフロー計画 (千円)

	1年目	3年目	5年目	
売上高	10,132	11,016	11,604	
売上原価	4,053	4,186	4,061	
売上総利益	6,079	6,830	7,543	
経費	家賃	0	0	0
	支払利息	0	0	0
	減価償却費	1,480	1,480	1,480
	人件費	2,955	3,274	3,792
	水道光熱費	1,200	1,200	1,200
	販促費	60	60	60
	保険	150	150	150
	その他経費	600	600	600
経費合計	6,445	6,764	7,282	
営業利益	-366	66	261	
キャッシュフロー	1,114	1,546	1,741	

#### 3年目の売上詳細

	単価	数	1日	1か月	年間	年間
ケーキセット	750	6	4,500	18,000	4日/月(午前貸切)	216,000
ランチ	1,000	6	6,000	24,000	4日/月(午前貸切)	288,000
ランチ	700	10	7,000	140,000	20日/月	1,680,000
+ドリンク	150	8	1,200	24,000	20日/月	288,000
プチデザート	200	4	800	16,000	20日/月	192,000
その他カフェ	600	6	3,600	72,000	20日/月	864,000
夕食	700	10	7,000	140,000	20日/月	1,680,000
テイクアウト	700	7	4,900	98,000	20日/月	1,176,000
酒類	500	5	2,500	50,000	20日/月	600,000
スナック	3,000	3	9,000	72,000	8日/月 120日/年	1,080,000
貸切	4,000	5	20,000	80,000	4回/月 60回/年	1,200,000
小計						9,264,000
寺子屋会費	7,000	4	28,000	28,000		336,000
寺子屋会費	5,000	6	30,000	30,000		360,000
寺子屋(子ども小)	200	3	600	12,000	20日/月	144,000
寺子屋(中高生)	300	6	1,800	36,000	20日/月	432,000
寺子屋(大人)	500	4	2,000	40,000	20日/月	480,000
小計						1,752,000
計						11,016,000

●売上高の根拠  
 所属自治体(団地)に238世帯・約530人が住んでいることや徒歩圏内に200世帯を超える自治体(団地)が3つ密集していることをベースに算出。ほか、PTA仲間などの友人、県内の創業セミナーや各種団体にも参加し、事業内容をPR(山口県にソーシャルビジネスコンテストで準優勝)してきたことも加味。また、手伝ってくれる家族は

5 / 6

若いのでブログや SNS などで集客します。

● 売上原価の根拠

健康に良い食材を使用し、ボランティアタイムは低価格で提供する為、原価率は高くなります。飲食業の原価率は平均 35%、理想は 30%ですが、良い食材を使用したいことと創業間もないこともあり、初年度は 40%に設定。徐々にボランティア活動に賛同してもらえる人たちに協力をお願いし（規格外の野菜・趣味の野菜作り・フードバンク）、仕入れ値を抑える努力を続け、5 年後には 35%を実現します。

● 人件費及び家賃など経費の根拠：家族（主人・二男夫婦・妹・弟）が協力

家族および活動に賛同してくれる仲間の協力で人件費を節約できます。特に児童の総合的な学習は、居合わせる高齢者が中心に対応してくれるので、学童保育が児童 35 人に大人 2 人に対応しているのに比べ、放課後寺子屋では児童（定員 20 名/日）に対してより多くの大人が対応でき、しかも費用がかからないというのも、この事業の大きな特徴です。

● ほか、資金の調達方法は右図の通りです。

資金計画

(千円)

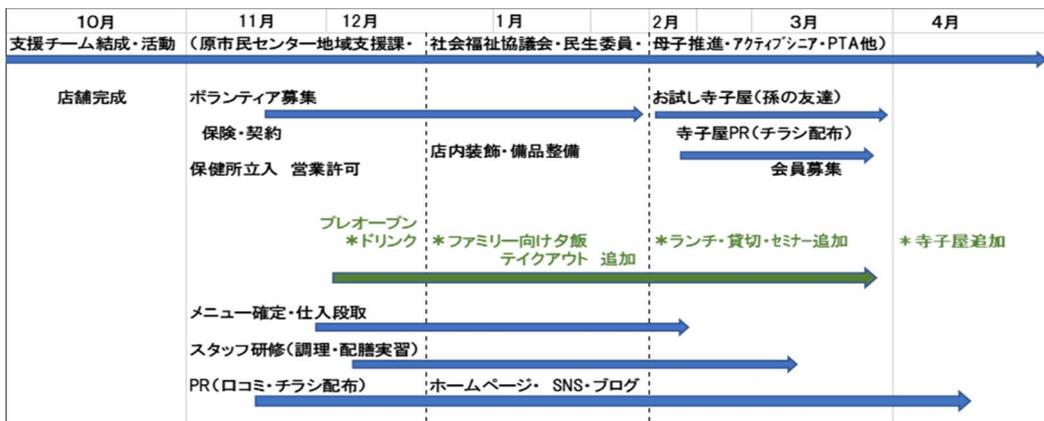
必要資金		金額	調達方法	金額
創業資金	内装費	8,800	自己資金	10,000
	厨房機器	3,000		
	備品・設備費	2,000		
	その他	100		
創業資金合計		13,900	山口県補助金	1,000
運転資金	仕入	500		
	人件費	700		
	水道光熱費	400		
	保険 他	100		
	車両費	100		
	広告宣伝費・通信費 他	300		
運転資金合計		2,100		
合計		16,000	合計	16,000

大まかな流れ

実現に至るマイルストーン

29 年 4 月のオープンに向け、下記のスケジュールで進行しています。

28 年 12 月現在、店舗の準備（右写真）は完了。残り 3 ヶ月でお試し寺子屋や宣伝活動を実施します。



長期的な展開

長期的には事業の充実と横展開を図ります。

1. 事業の充実：地域での連携を拡大



2. 横展開：各校区に 1 つ設置

